

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 4月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0873800676
法人名	有限会社 メディカルアシスト
事業所名	グループホーム つくし
所在地 (電話番号)	茨城県稲敷郡阿見町曙176-3 (電話)029-887-2823

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年4月20日	評価確定日	平成19年11月7日

【情報提供票より】(平成19年3月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤9人, 非常勤6人, 常勤換算6.3人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階 建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(90,000 円)	有りの場合 償却の有無	無(退居時返還)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

(4)利用者の概要(3月31日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低 61 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	阿見第一クリニック 江島記念眼科歯科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の中で、「地域の一員」としての意識を強く持ち、事業を展開させている。地域に開放されたグループホームの確立に向けて、入居者の家族とともに市や自治会の祭りに参加したり、近隣保安パトロールを実施したりと、「地域との交流」「地域への貢献」を推し進めている。近所の中高生等が気軽にボランティア、あるいは「遊び」にこられる環境や関係が構築されている。また、入居者の自立支援、質の高い福祉サービスの向上にむけて、代表者・管理職・職員共に取り組んでいく姿勢が見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価等の記録は玄関先に設置され、自由閲覧できるようになっている。また、月1回のカンファレンスの中において十分な話し合いや確認がなされ、議事録の活用によって全職員に漏れないように共有化がはかられている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	月1回のカンファレンスを中心に、職員同士の十分な話し合いや確認がなされ、議事録の活用によって全職員に漏れないように共有化がはかられている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議における民生委員との意見交換から、近隣の幼稚園との交流案が提起され実際に行われたり、それ以外にもボランティアの相互交流等へむすびついた会議内容が多数見られる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への報告や連絡は、緊急時を含めて必要に応じて実施されて、それ以外にも広報誌の発行により、ホームにおける入居者の生活模様を写真で伝えている。家族へのアンケートを実施して、家族の要望希望を積極的に取り入れている。吸い上げた意見や要望は、すぐさまケアの向上にむすびつけるよう話し合いを行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携は、阿見町の「花ひらくまち推進委員会」の「花ひらくまち運動」への参加や、2・5月の地域のゴミとり、7月のコスモスの種まき参加、近隣パトロール、ドライブ、地元お祭りへの参加などが活発に行われている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	メディカルアシストとしての理念を中心に、グループホーム独自の理念をも掲げられ(季節感を感じられるケアの実践等)、利用者の「いきいき」「楽しみ」のある生活を支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員との共有認識は、具体的には行事の企画(日本古来の年中行事を中心に)や行事食の提案の中に見られる。また、利用者の思いも取り入れて、「一緒に楽しみながらつくっていく」というサービス提供形態がつけられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	阿見町の「花ひらくまち推進委員会」の「花ひらくまち運動」への参加や、2・5月の地域のゴミとり、7月のコスモスの種まき参加、近隣パトロール、ドライブ、地元お祭りへの参加等々、バラエティ豊かな地域参加がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	すでに受けている外部評価等の記録が玄関先に設置され、自由閲覧できるようになっている。また、月1回のカンファレンスの中において十分な話し合いや確認がなされ、議事録の活用によって全職員に漏れがないように共有化がはかられている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議における民生委員との意見交換から、近隣の幼稚園との交流案が提起され実際に行われたり、それ以外にもボランティアの相互交流等へむすびついた会議内容が多数見られる。		

茨城県 グループホームつくし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の介護保険室との随時連携を行っている。また、「花ひらくまち推進委員会」等の参加など、町との連携も充実している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	緊急時を含めて必要に応じ、電話連絡・報告を実施している。また、広報誌を発行して、ホームにおける利用者の生活模様を写真で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応のマニュアルを整備している。また、家族へのアンケートを実施して、家族の要望希望を積極的に取り入れている。吸い上げた意見や要望は、すぐさまケアの向上にむすびつけるよう話し合いを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動、結婚退職等などはすべてホームの行事としてとらえ、お別れ会やお祝い会、レクリエーション等の実施に結びつけ、利用者の生活の質の向上、充実をはかっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画や報告書は未整備だが、適宜各々の職員のレベルにあった研修等を取り入れ、カンファレンスや資料配布を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームの管理者同士、医療職、あるいは医療機関との連携・交流がはかられている。また、つくば市のグループホーム連絡協議会と連携をすすめている。茨城県の協議会には未加入である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規入所希望者には、まず短期入所をお勧めし、なじみの関係づくりや、入居に伴う心身の負担軽減を支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活暦を中心に情報収集を行っている。特に社会参加活動の機会において、利用者のさまざまな意向・嗜好・希望を聴取している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自に用いている「ハートプラン表」に、職員が支援の中で利用者に対して気になったこと、気づいたことを抽出している。例え現実的に難しい気づき、ニーズだとしてもハートプラン表にあげることによって職員皆で情報を把握するとともに、傾聴の姿勢にも結び付けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の家族、医療機関、看護師、介護職とで十分に意見交換を行い、また利用者本人への様子観察から利用者本位のケアを検討し、ケア内容を策定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	適時モニタリングを実施している。経過記録と日々を記録をわけて記載している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者やその家族からの相談に応じて、緊急に対応できる準備を整えている。短期入所サービスの受け入れも可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日看護師が来訪し、連携をとっている。また、緊急時にもすぐ看護師がかけつけてくれる体制が構築されており、医療機関との連携も円滑に実施されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの実施に向けて、職員の意思統一がなされている。ケアマニュアルの活用が前提とされているが、ターミナルケアに必要なガイドライン等は現在準備中である。	○	ターミナルケアの実際にむけて、家族との連携、医療連携等の詳細なる取り決め(方針、書類含む)、職員の勉強会等々の準備を推し進められたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護についての方針にそったケアを徹底している。広報誌の写真に掲載される方も、個別に同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ハートプランの活用をはじめ、利用者個々のニーズに合わせた日課を検討し、また、利用者同士の間人間関係をも考慮して対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの理念として、その具体的な実践として、季節感あふれる食事内容の提供を心がけているが、職員と利用者の食事が別々となっており、「共に食事を楽しむ」状況にはなっていない。	○	施設運営や勤務体制上、早急な解決が難しいのならば、まずは「利用者と職員と一緒にお茶を飲む」といったところからはじめて、食事を共に楽しむ対応を推し進められたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴表があるが、個人の希望を優先している。大半の方が夜間浴を希望しており、それに合わせた人員配置等、工夫を徹底して対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草刈りや農作業など、利用者が喜びや楽しみを見出せる活動内容の支援と、それを通じた自立支援を展開している。書道や料理、各種レクリエーション等は、それぞれのレベルに合わせた内容とし、また役割にむすびつけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出(散歩や買い物等)、非日常的な外出(祭り、イベント等)を定期的に支援している。その行く先、内容は利用者の希望を取り入れている。また、水金の近隣パトロールといった外出もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、夜間(19時～翌8時半)のみ防犯上の観点から施錠している。徘徊が見られる場合には、その利用者の付き添いを実施して、施錠しないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震想定避難訓練、夜間避難訓練を定期的に実施している。消防署の指導を受けながら、緊急連絡網の整備、避難経路の確保及び掲示を徹底している。また、職員は全員AED使用法を受講中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取状況の把握について前回の調査で指摘を受け、その後、職員皆で話し合い、カロリーを表示を行うことにより把握につとめている。現在は水分摂取量の把握を執り行おうとしているところである。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が団欒できるスペースに水槽を設置し、インテリアとして楽しむと同時に、観賞魚の世話や水槽の管理等を利用者とともにやっている。季節を感じることでできる装飾や展示物等によって、共有空間がぬくもりのあるスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や、その家族の意向や希望を傾聴し、その人らしい居室となるよう心がけて支援している。		